

# アメリカでの留学体験

国際文化学科 2年 水内 俊貴

私がアメリカに留学しようと思った理由は、自身の英語能力の向上のためと将来英語を使う職に就いたときにアメリカでの留学経験が必ず役に立つと思ったからです。アメリカでの生活は常に自分の周りが英語であふれていて自然と英語が身についていくのが分かりました。もちろん最初は英語を使うことに慣れておらず自分の言いたいことをうまく伝えられないことや、相手の言っていることが分からないことがほとんどでした。アメリカの大学の留学生に英語を教えてくれる先生方は、わかりやすいように簡単な言葉でゆっくりと話してくださっていたのですが、現地の学生やほかの先生方は自分たち留学生が英語を話せると思って話してくるのでそういう方たちとコミュニケーションを取ることに苦労しました。しかし、現地の人たちはとても親切で英語がうまくないことを伝えると、わかりやすいように話してくれたり、アドバイスや勉強が分からなかったら教えてくれたりしました。それだけでなく、自分たちから積極的に話しかけていかない消極的な自分たち日本人に会うたびにたくさん話しかけてくれ、空いている時間を一緒に過ごしてくれたことはアメリカでの生活に慣れていくとても大きな助けとなりました。自分たちが留学したミズーリ州のメリービルという町は田舎で小さな町でしたがアメリカの特徴である様々な文化を持った人たちや、いろいろな国籍の人たちが混在おり、たくさんの人とかかわっていく中でたくさんを知り、たくさんを吸収できました。自分のいたESLという留学生が英語を勉強するためのクラスには、中国人と韓国人、サウジアラビア人の人たちがいました。授業の内容に沿って自分たちの国の文化について話し合う機会が多かったのですが、法律や制度に大きな違いがあって驚きました。授業外ではそのほかの国の人たちとも話す機会がありそこでは法律や制度などよりも衣食住などの普段の暮らしについて話すことが多かったです。たくさんの人と話していく中で感じたのが、他の国の人たちは自分の国について詳しく知っていて、さらにほかの国についても知っていることが多かったです。ほかの国の文化や相手に対する興味や意欲の高さの違いを感じました。その中で悔やまれるのが、自分がほかの国について知っていることが少なく、さらには、自分の国について聞かれた時も知らなくて話せなかったことがあったことです。このほかにも普段の雑談が難しいと感じました。授業中には決まった話題が決まっていたのでそれに沿って話していればよかったのですが、普段の雑談では授業で使う英語よりももっと砕けた英語の表現が必要になることや、会話の中で冗談を言うのが難しいと感じました。

たくさんの人とかかわっていく中でその人の文化に触れることができましたが、アメリカの文化については自分か経験することで、目で見て肌で感じることができました。これはその土地でしか触れることのできないものなのでとても貴重な経験になったと思います。

まず、大学についてですが、大学の敷地が非常に広く、たくさんの施設があることに驚きました。アメリカはフットボールが非常に盛んで、大学にはフットボールのチームとスタジアム、それに客席があり地域の人たちがチケットを買って見に来るほどの人気で驚きました。フットボールの試合のハーフタイムには大学のチアリーダーやブラスバンドがハーフタイムショーをしていました。大学内に劇場のようなものがあり、コメディアンやオーケストラが来たり、学生がイベントを開催したりしていました。このほかにも、コーヒーを飲んでお話しをしたり、音楽を流して踊るパーティーなど毎日のようにたくさんのイベントに参加したりしていました。大学で開かれるイベントだけでなくアメリカの伝統的なイベントにもたくさん参加してきました。例を挙げると、ハロウィーンや感謝祭の日などのイベントです。ハロウィーンでは期間中にカボチャをくり抜いてランタンを作り、当日はモンスターなどの衣装をしてお菓子を食べたりゲームをしたりしてパーティーをしました。ハロウィーンの日にはダウントウンと呼ばれる市街に子供たちが衣装をしてお菓子をもらいに行っていました。ハロウィーンはアメリカの伝統的なお祭りなので家の前にカボチャのランタンや人形などを置いて町全体がハロウィーン一色でした。感謝祭の期間には大学の寮が閉まったため、大学付近に住んでいる家族の家にホームステイしました。ホームステイ先の家族は毎年生徒をホームステイ先として受け入れているそうなのでとても良い対応をしてくれました。感謝祭の当日にはアメリカの伝統的な感謝祭の料理の七面鳥を食べました。ホームステイは5日間あったのですが車でカンザスシティという大きな町に連れて行ってくださり、一緒に観光地を回りました。ほかには地域の人と一緒に食事を取ったりしました。ホームステイ先の家はテレビなどの電子機器は少なく昔ながらの家という感じでした。ラジオがあったので一緒に聞いたり、料理を作ったりしていました。アメリカの伝統的なイベントのほかに大学の大きなイベントに参加しました。アメリカの大学にはホームカミングという日があり、大学に在籍していた卒業生たちが帰ってきました。ホームカミングにはパレードがありブラスバンドが演奏していたり、様々なコスチュームに衣装したりしていました。

私たち留学生のクラスは一クラス15人程度でそのほとんどが新潟国際情報大学の生徒でした。授業は **Reading & Writing**, **Listening & Speaking**, **Grammar**, **TOEIC**, **American Culture** がありました。**Reading & Writing** の授業では教科書に書かれている英語の長文を読み、読解力を向上させる授業です。この授業の宿題で新聞の記事を要約するというものがあったのですが、新聞の記事は自分が今まで読んできた本や教科書に書かれている文より難しい表現や英文が多く使われていたのでとても苦労しました。**Listening & Speaking** の授業ではスピーチやCDで英語を聞いて、話すことと聞くことに慣れていきました。日本語のスピーチでさえ、練習や準備が必要で苦労するのに、それを英語でするので非常に大変でした。**Grammar** の授業では教科書の練習問題を解きながら英文法の基礎から学んでいきました。日本で今まで勉強してきた文法をもっと深く教えられたのでとても面白かったです。**TOEIC** の授業ではリスニングを中心に **TOEIC** 試験の問題対策として似たような問題

を解いて試験の対策をしていました。American Culture の授業では現地の学生がスライドショーや動画を使いアメリカの風土や文化について教えてくれました。アメリカで生活していく上で文化に溶け込んでいくことは必要になってくるのでこの授業はとても助かりました。どの授業も共通して言えることは宿題が多かったことと授業中には自分の意見を伝えることが求められるということです。毎日大量の宿題が出るので日本では使っていなかったのですが手帳にメモするように言われました。中でも驚いたのが教科書の問題を解くだけではなく、大学内の初めて会う人にインタビューをしに行ったり、イベントに参加して写真をSNSに投稿したりする宿題があったことです。授業のほかにカンバゼーションパートナーと呼ばれる現地の学生が自分たち留学生 2,3 人に 1 人ついて 1 時間程度お話をすることが 1 週間に 2 回ありました。話す内容は特に決められておらず、アメリカと日本の違いについて話したり、学校での出来事や、トランプなどのゲームをしたりしていました。アメリカでは授業が 3 時前には終わるのですがイベントの参加や宿題に時間が割かれるので毎日忙しかったです。平日はとても忙しかったのですが、後半の 2 ヶ月は金曜、土曜、日曜は授業がなくお休みだったので市街に出かけたりしていました。特によく出かけていたのは Walmart というスーパーのようなところに行っていました。お店だけでなく商品も日本のものとは違いとても大きくて驚きました。大きさだけでなく食べ物の色にも驚きました。特にケーキやグミ、キャンディーなどの色が着色料で色付けされたような赤や緑、青などの原色の色をしていて驚きました。ほかには市街にあるレストランに食事をしに行ったり散歩をしたりしていました。市街にはアメリカの象徴的なファストフード店だけでなくメキシコ料理やギリシャ料理、アジア系の料理を出すお店など様々な飲食店がありました。そのほかに休日には感謝祭の期間にお世話になるホストファミリーの家族と一緒に教会に行ってお祈りをしたり、食事をしたり車で少し遠くの大きな町へ観光や買い物に連れて行ってもらっていました。日本では教会に行く機会はなく非常に貴重な経験になり、キリスト教徒ではない日本人の私も快く向かい入れてくれました。

このアメリカ留学を通してたくさんの人とかかわり、たくさんの体験をしてきました。アメリカでの日々は毎日が新鮮でたくさんの刺激を受けました。アメリカの大学と日本の大学との違いに驚き、ルームメイトは新潟国際情報大学の生徒でしたが寮での共同生活や毎日英語に触れる日々、様々な文化、国籍を持つ人たちとの交流で触れた相手の持つ文化、アメリカの伝統的な風習やお祭り、とても親切にしてくれた先生方や友人、ホームステイ先の家族。本当にたくさんの貴重な経験をすることができ、非常に濃い 4 カ月でした。自分自身とても成長できたと感じています。この経験ができたのもアメリカの大学と友好関係を築いて、様々な面で支えてくださった新潟国際情報大学の先生方、つらいとき、不安な時も一緒にさえあった仲間たち、金銭面の援助と日本から送り出してくれた両親のおかげだと強く感じ、周りの環境に助けられてばかりだと感じています。たくさんの人とかかわり様々な影響、経験を受ける日々で自分は多くのことを与えられたと感じています。しかしその反面、

自分は関わってきた人たちにたくさんの良い影響や経験をあげることができず与えられるだけではなかったのかと心残りです。それくらい私の人生の中で非常に濃い4か月間だったと思っています。

